

木のスペシャリストが集う 技術支援機関

福岡県工業技術センター インテリア研究所

山口 雅裕 さん

福岡県工業技術センターインテリア研究所といえば、大川市にある県工業技術センターのひとつです。実際にどんなものがあるのか、どんなことをやっているのか。具体的に知っている人はどれくらいいるのでしょうか。今回は福岡県工業技術センターインテリア研究所の所長である山口さんにインテリア研究所とはどのような施設なのかなど様々なお話を伺いました。

工業技術発展を支える研究所

福岡県内にはインテリア研究所を含めて、四つの工業技術センターがあります。それぞれその地域で発展した産業に基づいた研究・技術開発を行っています。大川では家具や木材加工など、木に特化した

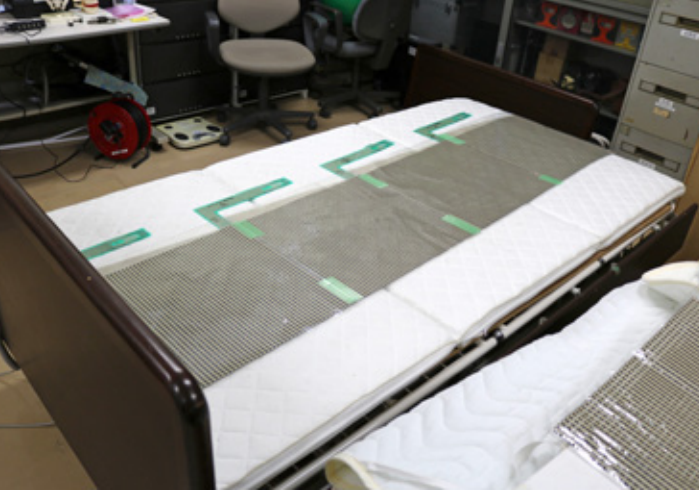
研究・技術開発を行っているとのこと。

では、具体的にはどのようなことを行っているのでしょうか。

「インテリア研究所は、『家具・建具、木質、素材技術の機関研究所』というキャッチフレーズのもと、木工製品やインテリア産業の技術支援を行っています。」

研究所の事業としては、研究開発をメインに行っています。中小企業に使用して頂けるような新技術の開発などですね。以前は大学の研究に近いこともやっていましたが、今は出口に近い、企業と一緒に製品の開発を行っています。そういった企業と共同研究で行っているものが全体の六割を占めるようになってきました。研究が終わった頃には、





製品が出来上がっており、早くうちに企業の売上に反映される場合が多いです。それから依頼試験ですね。これは企業が販売している製品の性能の評価をするものです。有料になりますが、一般の分析評価機関と比べるとかなりお安い値段で承っています。また分析評価機器などがあるため、企業が格安で機械を使用することも可能です。使用料は百万円の機械なら一時間あたり百円。一千万円の機械なら一時間あたり千円ぐらいです。

次に技術相談も行っています。技術的に困ったときはもちろんですが、工程でトラブルが多発して原因がわからない、客先でトラブルが多発している、客先で原因を調べたいなどといった相談を無料で受け付けています。こういった技

術相談から共同研究に結びつくことも多いですね。

人材育成や技術交流、情報収集・提供なども行っています。工業技術センターでは、メールマガジンの配信を390社ほどに、二週間に一度行っています。講習会や研修会の案内、ものづくり補助金や国の研究開発事業が始まりますというような案内も行っていきます。ぜひ、ホームページ(※)に接続してメールマガジンの配信設定をしてください。また研究の成果発表会、外部講師を招いての講演会、見学会、同じような課題を持つ企業を集めての研究会といった催し物も行っていきます」

スペシャリストが揃った研究所

様々な事業を行っているインテリア研究所ですが、実際にはどのような製品開発などを行ってきたのでしょうか。「これまでには人間工学を用いた快適性が良い敷布、質感の良い金属製のギフト用ものさし、人間工学を活用して製作した長時間座っても疲れない木製の椅子、人間工学でシミュレーションを行った姿勢をよい状態のまま保てる書見台など様々な研究開発を企業と共に進めてきました。博多織でできたギターストラップやカメラストラップは、デザインブラッシュアップ講座という人材育成の一環とし

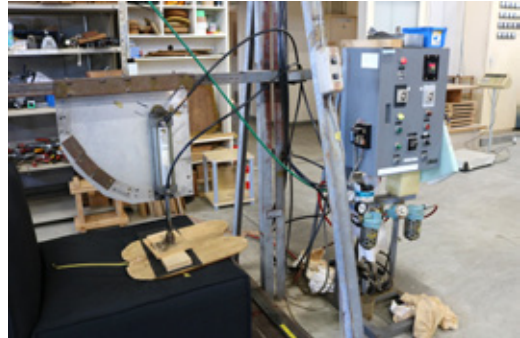
て行っている事業を活用して製作されました。これは九州産業大学の青木先生にご協力頂き、先生と学生さんと、研究所の三者が力を合わせ、デザインを良くしていきます。もうという取り組みです。これはいまから開発する製品でも既存の製品でも利用することが出来ます。製品のデザインはもちろんですが、製品のコンセプト・売り方・カタログまで広く携わっています。学生さんの若くて突飛な感性を取り入れることがメリットですね。

木材にフェノール樹脂を注入した製品は、雨ざらしになっても腐らない、シロアリに食われぬというのが最大の売りです。開発自体は十年以上前に完了していましたが、すぐに腐らないうことが証明できて大量に売れ始めました。厳島神社の海につかってしまう部分など歴史的建造物にもこの技術が使われています。こういった研究開発など、企業は簡単に申し込みができるのでしょ



木材にフェノール樹脂を注入する機械

緒に研究を進めていくことも出来ますし、受託研究といって、企業が若干のお金を頂戴しますが共に研究を進めていくことも出来ます。研究自体は最低でも二年はかかります。ものによっては五年以上かかることもあります。依頼試験に関しては、単に耐久試験をしたいではなく、『取引先からこういう耐久性を教えてください』という相談から受けています。以前こういう試験を行ったから、同じような試験を行ってほしいといった依頼も可能です。木のスペシャリストが揃っている機関ですし、県立の機関でもあるので、使わないと損だとも思います。木製品のことから来ま



耐久試験を行うための機械

した、研究所の見学に来ましたでも構いません。ぜひともインテリア研究所を利用してほしいですね」

企業のパートナーになる

インテリア研究所が描く夢とは、どんなことでしょうか。「企業と一緒に進んで研究開発をし、商品を作製して皆様のお役に立つことが目標ですね。普通とはちよつと違ったアイデアをお持ちの場合は、インテリア研究所とタッグを組んで製品化を目指していただきます。『技術的には難しいかもしれないが作りたい!』というものがあれば、ぜひ声を掛けてください。そういった製品化の積み重ねが、大川を盛り上げていく一因になってくれたら嬉しいですね」

※…福岡県工業技術センター インテリア研究所 ホームページ <http://www.fitc.pref.fukuoka.jp/>